

9年間の育ちに責任を持つ 「小中一貫校」が開校します

平成25年4月から、多久市内全ての小中学校は再編し3校の「小中一貫校」に生まれ変わります。

全国的な少子化の傾向は、多久市も例外ではなく、市内の児童生徒数は急激な減少が進んで、複式学級の編制となり、集団教育の機能を果たすことが困難な学校が見られるようになりました。そのため社会性の育成や切磋琢磨する機会の減少など、さまざまな面で制約が生じてきていました。また、学力向上に加え、中学入学時に学習意欲が落ちる「中一ギャップ」と呼ばれる課題への対応も必要に迫られるようになりました。このため、教育委員会では、学校再編と併せて「小中一貫教育」の導入を図り、教育環境の整備を進めることとしました。

平成18年当初は、「まだ統合も一貫教育も周知されていない」状況にありました。「地域の生き甲斐となる拠点として、学校だけが頼りだ」という声もあり、統廃合には反対もありましたが、少しずつ理解が進んでいったと思います。地域振興と適性配置を両立させるのは大変難しいの思いがしました。適性配置による子どもの教育環境の整備と地域づくりの両立について、今

後もこぞって心しなければならぬ課題だと思っています。

子どもたちが基礎・基本を身につけ、学力向上、豊かな人間性や自ら学ぶ力など「生き残る力」を育成するためには、小学校と中学校の9年間を連携・連続した計画の下で、指導することが求められています。

9年間を前期（4年間）・中期（3年間）・後期（2年間）各ステージのまとまりで指導します。その節目で子どもの状況を把握し、課題を改めて認識し整理して、次のステップへと向かっていきます。教育面、身体面、心理面からも小学4から5年生、中学1から2年生といったところで節目を迎えます。その時に合わせて、3つのステージを設けていると理解していただければよいと思います。

「小中一貫」の中核を成すのが、先生方の授業参観や合同研修会を通じた指導力の向上です。互いの授業を見て、互いに経験し、教える内容を理解する。例えば、中学校の数学の先生が小学校で算数を教えると、小学校の先生は「なるほど。こう教えたら理解しやすいな」と気づきます。逆に、中学校の先生が小学校の授業を見て「ここまでの内容



多久市教育長
中川 正博

をこう教えていたのか。中学では、こう教えないとつながらないな」と、指導のノウハウを学ぶことができます。加えて個々の子どもの状況も、自分の目で理解でき、目的意識や課題意識を持つて子どもを把握することができそうです。

さらに小学5、6年生になったら、一部教科担当制を実施します。学級担任から教科担任へとという急激な変化を緩和して、小学校から中学校への滑らかな接続を図ります。併せて、教科の専門性を生かした魅力ある授業で、子どもたちの学習意欲を高めることが期待されます。

このような方法で、9学年を一緒にしたメリットが出るように気を配りたいと思います。例えば7年生以上には「自分たちは先輩だ、いい姿を見せなければいけない」という自覚を促します。低学年にとっても「こういう先輩になりたい」という憧れの存在になってほしいと思います。児童生徒の自尊感情を高め、人間関係を結ぶ力の育成に努めます。

多久市の歴史、文化遺産、伝統産業と地元の自然を知ること誇りと郷土意識を持つてもらいたいと考えています。祭りなど地域行事への合同参加も

考えなければなりません。在籍している先生たちの中に、新しい教育スタイルである「一貫教育」を勉強したいという思いの先生が多いのも心強く思います。

小中一貫校では、これまで以上に地域に開かれた学校づくりをめざします。そのために、学校と地域が連携し、新たな学校行事の工夫、実践を行い、地域の拠点としての学校づくりを強化します。

「一貫教育」の推進には、動いてみないと見えないことも多くあります。ほとんどの教職員は未経験です。学校の壁、人間関係の壁を打ち破り、全教職員が一丸となり、9年間の育ちに責任を持つ小中一貫指導のための協働が今、多久市で始まろうとしています。

今後の日程と、新たな小中一貫校3校の紹介をします。学校名には「東原庫舎」と愛称をつけて呼ぶようになります。

今後の日程

- 3月15日(金) 中学校卒業式
- 3月18日(月) 小学校卒業式
- 3月19日(火) 修了式
- 4月2日(火) 小学校閉校式(校旗返納)
- 4月2日(火) 小中一貫校開校式
- (中央公民館)
- 4月8日(月) 始業式
- 4月11日(木) 小中合同入学式